⑩2 点差に泣き、2 点差に笑う

（オータムチャレンジ関東大会決勝）

2020 年 11 月 28 日

名物上州空っ風、赤城颪（あかぎおろし）で有名な群馬県。県立敷島公園ラグビー場で今年の関東オータムチャレンジ大会決勝が開催された。

ご承知の通り、今年度の花園で開催される全国高校選手権は 100 回記念大会ということで、各地区（9 ブロック、9 校）の都道府県の準優勝校が「オータムチャレンジ勝者」が花園に出場できる。その最後の枠（関東ブロック）の決勝戦が 11 月 28 日土曜日に開催された。

決勝戦は、東京都代表国学院久我山高（以下、「久我山」）、神奈川県代表東海大相模（以下、「相模」）の 2 校の対戦。この 2 校にはこれまで麻生ラグビースクールの OB が数多く進学しており、麻生 RS としてはどちらも応援したい、どちらにも花園に行って欲しいと願う両校でもあり、些か複雑な想いで試合を観ることとなった。

試合は北風強く吹く中で 11 時のキックオフとなった。久我山が追い風、相模が向かい風の陣地での前半。風を味方に久我山が出だし猛攻。ペナルティからの FW モールでトライを獲る。その後、相模自陣でのペナルティ、久我山 PG を決める。その後、落ち着きを取り戻した相模は強い向かい風の為キックを極力使わず徐々に前進、相手陣地に攻め入る。

すぐさま前半 12 分、相手陣地 22m 付近からの攻撃で、FB 参加の飛ばしパスであっさりと 1 つ目のトライ。前半 25 分に相模自陣でのライン攻撃の中、左ウイングのキックの後にノーバインドでタックルにいった久我山 3 番。このプレーがシンビンとなり一人欠けてしまった。その後相模が前進を続け、前半ロスタイムで右のオープン攻撃、きれいなサインプレーが決まり、右隅にトライで逆転。久我山 10－12 相模で前半折り返し。

後半は攻守逆転で追い風の相模、向かい風の久我山でスタート。久我山ベンチからの檄が飛び、一進一退の攻防が続く。久我山のパスミスからターンオーバーされ、相模が右隅にトライ。この後のゴールが決まる。後でこのゴールが価千金のゴール（2 点）となる。

最後の力を振り絞り久我山が怒涛の攻撃。必死に食い止める相模。再度一進一退のゲームが繰り広げられ、ペナルティを重ねて交代する相模に久我山が前進。ようやくトライを挙げるもタイムアップ。ゴールを狙う久我山キッカーの落胆の様子がなんとも印象的だった。

結果は、〇東海大相模 19－17 国学院久我山●の名門対決に幕が下りた。あと 2 点が届かなかった桐蔭―相模の試合と同じ点差。2 点差に泣いた相模が、2 点差で笑うこととなった。おめでとう相模！これで花園へ行ける。もう一度桐蔭と花園で戦える可能性ができた。

東海大相模のフランカーの米元悠翔（ハルト）君、森天（ソラ）君の二人が麻生 RS OB が今回の相模のメンバーに名を連ねていた。この試合に MOM（マン・オブ・ザ・マッチ）はないが、数々のタックルと効果的なジャッカルを決めたハルト君に是非 MOM を上げたい、と思う。後半から入ったソラ君も数々のタックルを決めていたが、最後の 10 分間スパイクが脱げたままでの試合続行、ご苦労様。また、2 人にも雄姿を花園で見せて欲しい。神奈川 2 校の出場。この冬の楽しみがまたひとつ増えた。